

## デジタルの活用について

・個人が持つ情報デバイスにより、知りたいことが直接入手できる時代に変化している中で、図書館の役割とは何か、今一度考え直す必要がある

・デジタル・デバイドの問題を解決するために、デジタルの相談を受けるサービスを図書館で提供してもよいのでは

・これからの図書館は、あらゆる人が一定のレベルで情報を収集し、扱えるよう、力を育むサポートの場になる必要がある

・パソコンに馴染みのない高齢者世代が情報難民になっていて、生活に不便が生じている。高齢者世代の支援については、これまでは福祉の領域でサポートをしてきたが、「デジタルデバイド」の分野については図書館が担ってもよいのでは

・ICTスキルを高めるために図書館は何ができるかという視点は、全年齢層の人たちにも等しく提供できるとよい

・駅の図書館資料受取窓口等も活用し、デジタルの相談サービスを提供できたら、高齢者にも利用しやすい

・デジタルデバイスを30分単位などで無料で貸出すサービスがあるとよい

・図書館でデジタル相談サービスを提供すると同時に、アウトリーチの手法、訪問サービスの方法も考えられる

・デジタルの活用に当たり、図書資料とインターネット情報のバランスをどのように扱うかを考えなければならない

・紙の本からデジタルまで、どれであっても使いたい人のニーズに応えられるようという視点でサービスの軸を再構築していくのも一つのあり方では

・デジタルの相談は、専門的知識を持った人がいないとできないのでは。人材をどう確保するのか考える必要がある

・パソコンの使い方相談会を定期的に行っているボランティア団体と連携することも考えられる

・電子図書館サービスを始める場合、図書館司書がICTについてもっと詳しくなる必要がある

・既にあるデジタル録音図書の充実を図るなど、まずは障害者や高齢者向けのサービス等をICTを使って支援してほしい

・ICTの活用は、アナログ媒体ではアクセスしづらかった人たちへのメリットも大きい

・デジタルの相談を図書館で全て引き受けるのは難しいため、ある程度の線引きは必要では

・他部署が持つ福祉や介護の情報、区民からの情報などが図書館でテラーメイドされ、しかもデジタルで手に入れられれば面白い

# デジタルの活用について

・情報技術を駆使して生活や業務の質を向上させる方法だけでなく、情報技術を持っているものの悪意や世の中の変化から身を守るための方法について伝えていくのも図書館の大きな役目では

・障害者向けのボランティアサービスは、昔のシステムのまま行っているものも多い。デジタルの活用について、図書館がバックアップしてくれればよい

・ICTを導入していく中で、教える側の人材の教育も重要になってくる。デジタル自体の変化に合わせ、職員や行政側の対応していく姿勢が重要になる

・13館で対応を共有するために、ナレッジベース（共有型データベース）を活用して情報を収集し、共有することが大事

・デジタルデバイスの扱いに慣れている大学生等若い方が、高齢者をケアする社会的な仕組みを作るとよい

・専門性を持った人材を育成するにはかなりの時間を要する。色々な人の力をいかに集め、図書館でどのように機能させるのかという考え方をしていくと、小さなことからでも始められるのでは

・図書館の情報環境の整備も重要である

・図書館でデジタルを活用するのであれば、中途半端なこととはせず、デジタルで情報収集を完結できるようにした方がよい。その上で、図書館に来ないとできないサービスは来館してもらうようにする必要がある

・電子図書館サービスは、新たな利用者層のニーズを呼び起こすという側面も十分あり得る。新しいサービスを提供し始めることで、改めて図書館を認識してもらう良いきっかけになるのでは